

テーマ：TOD によるサステナブルな田園都市

講師：太田 雅文氏（株式会社東急総合研究所フェロー・主席研究員）



日程：2024年9月6日

永く渋谷駅周辺の再開発に関与してきた経験を踏まえて鉄道と都市開発の歴史を振り返ると、サステナブル（持続可能）なまちづくりの重要性が強調される。共働き世帯の増加、2020年のコロナ禍で在宅勤務などライフスタイルが変化し、都市づくりの考え方が変わり、サステナブルがますます求められている。

TOD（Transit-Oriented Development）は公共交通を中心とした自動車に依存しないサステナブルな都市開発である。日本型TODは民間主導であり、各拠点（豆）と鉄道沿線（さや）が連動する「エンドウ豆」構造を持ち、地域特性に応じた開発が進められている。こうした取組みは世界的にも注目されている。

「サステナブル田園都市TODモデル」では、歴史と文化を尊重したまちづくりが求められ、地域社会と企業が協力して新たな価値を共創する仕組みが鍵となる。地域の多様な主体が交流できる場の創出が重要視され、これにより地域の活性化が図られる。地域間の連携や交流が重要で、このような有機的なネットワークの概念を「ナット（納豆）ワーク」と名付けた。「ネットワーク」は、地域の資源や特性を活かしながら、新たな価値を創造し、持続可能なコミュニティの構築に寄与する。

環境負荷を最小限に抑えたレジリエントなコミュニティが形成されることで脱炭素社会や循環型社会の実現が期待される。TODを基盤としたサステナブルな田園都市の未来像は、地域の特性を活かしたまちづくりの重要性を改めて認識させる。

東京大学工学部土木工学科卒業、同大学院工学系研究科土木工学専門修士課程修了。ロンドン大学ユニバーシティカレッジ大学院都市計画にてPh.Dを取得。東京急行電鉄株式会社入社後、鉄道事業本部事業統括部長、開発事業部副事業部長、株式会社東急ステーションリテール取締役副社長、株式会社東急設計コンサルタント取締役専務執行役員都市・土木本部長など、鉄道から都市開発関連部門まで幅広く歴任。

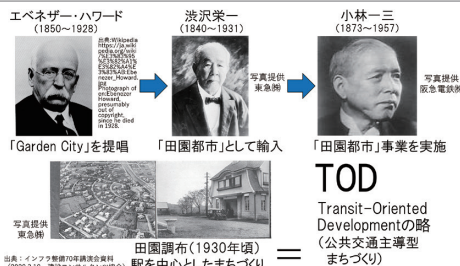


図3 田園都市とTODの歴史

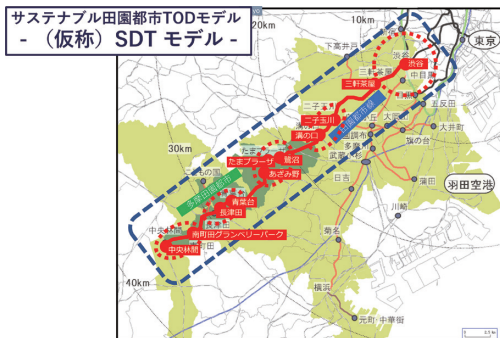


図4 鉄道主導のサステナブルな脱炭素・循環型社会

図3及び4：東急総合研究所 太田 雅文氏